

静岡文化芸術大学図書館・情報センターだより

新 知 人 故 郷

Shizuoka University of Art and Culture Library News

2007.3 Vol.9

平成19年3月発行

発行所 静岡文化芸術大学 図書館・情報センター
〒430-8533 浜松市中央二丁目1番1号
TEL (053) 457-6124 FAX (053) 457-6125
<http://www.suac.ac.jp/library>

Contents

■表紙

アクロポリスの
パルテノン ————— ①

■巻頭言

図書館雑感 ————— ②
カード目録から
「目録検索端末」へ
文化政策学部 国際文化学科教授
永井 輝雄

■図書館散歩

年間40万冊ずつ ————— ③
増える本
デザイン学部 空間造形学科長
鳥居 厚夫

■〈シリーズ〉

図書館・情報センターを使いこなそう!

「マイライブラリ」編 ————— ④

■ 本学教員の著作物 ————— ⑥



『アクロポリスのパルテノン』

基壇上部 幅約31m 長さ約70m 円柱の高さ約10.5m
「新潮古代美術館4;永遠のギリシア」新潮社,1979 [708.7/Sh61]

アクロポリスの数々の神殿は、紀元前5世紀に政治指導者ペリクレスにより、ペルシア戦争の勝利を記念して造営された。それらの神殿は、これまでのオリエント世界の専制の暴虐に対し民主制と理性の勝利を広くエーゲ海世界に宣言し、謳いあげるものであった。

そして特に、都市国家アテナイの守護神アテナをまつる神殿パルテノンは、彫刻家フェイディアスを総監督に登用してつくられた。重厚なドリス式要素と優雅なイオニア式要素の融合した白大理石造のパルテノンの壮麗・典雅な美しさは、ギリシア精神の永遠性を示している。即ち、不合理に対する合理の、隷属に対する独立の、混沌に対する秩序の、そして野蛮に対する文明の勝利を体現している。

ギリシアの都市国家ポリスでは、隷属的なオリエントの農民とは全く異なる政治的、精神的に自由な市民の文化が開花した。この地方にはティグリス・ユーフラテス両河のような大河がなく、農業生産に不可欠の大河の治水といった専制王権を生む条件がなかったからであり、また他方では、地中海が各地を結び合わせて交易を盛んにし、個人を小さな故郷から広い世界に目を大きく開かせて個人の自立を助けたからであった。

伊藤重剛「ギリシア神殿の魅力」『ギリシアの神殿』三省堂,1993 [523.03/Ma14]

弓削達「地中海世界の文明」『世界の建築2;ギリシア・ローマ』学習研究社,1982 [523.087/Se22]引用 加筆



文化政策学部 国際文化学科教授
永井輝雄
Teruo Nagai

文中に登場した図書

宗像誠也著
教育と教育政策
081/195/408

立花隆著
論駁 ロッキード
裁判批判を斬る1-3
現在購入手続き中

加藤周一著
夕陽妄語1-4
081/A82/1101-1103
914.6/Ka86/4

図書館雑感—カード目録から「目録検索端末」へ

初めて本を手にしたのがいつごろで、どんな本であったかは記憶にない。私の子ども時代は、今日のように本が満ち溢れていることもなかったし、私自身も本を読むことにさして関心がなかったように思う。ただし、わずかな小遣を使って貸本屋で漫画本を借りて読んだことははっきりと覚えている。

高等学校の通学路の途中に県立の図書館があったのであるが、その図書館で本を閲覧したことはなかったと思う。図書館を本格的に利用しだすのは大学で卒論を書かなければならなくなってからである。それ以後、専攻分野である教育学や教育制度学を中心に数多くの研究書や資料などに触れてくることになる。そのなかで繰り返し何回か読み重ねている本もある。例えば、宗像誠也「教育と教育政策」(岩波新書 1961)から教育行政研究の問題意識を深め、立花隆「論駁(Ⅰ～Ⅲ)ロッキード裁判を斬る」(朝日新聞 1985～1986)や加藤周一「夕陽妄語(Ⅰ～Ⅳ)」(朝日新聞 1987～1994)から時代の批判的精神や論理的思考力を読み取ってきたように思う。

ところで、図書館といえばまず思い出すのは、カード目録である。カード目録はその図書館が保管している図書の目録カードである。図書館の受付近くに和書と洋書のカード目録が収まっているボックスがずらりと並んでいて、それは図書館の顔のようであった。カード目録には、著者名目録、書名目録及び分類目録がある。図書を借りるときには、これらのカード目録から請求番号・記号を図書貸出票に転記して受付に持っていくのである。何十枚とカードを繰っても探している図書が見つからないこともたびたびである。ところが、1980年代中頃ごろから図書館業務にもコンピュータ・システムが導入され、図書を探すのは、カード目録に換わってコンピュータによる「目録検索端末」で行うことになった。これは画期的なものであり、書名あるいは著者名のデータをコンピュータに入力するだけで従来のカード目録の内容がディスプレイに表示され、しかもその図書がどの書棚のどこにあるかもたちまちに知ることができるのである。検索コーナーで複数の人が同時に検索でき、自宅からでもインターネットでの検索も可能だというのは、カード目録の時代の私には信じられないくらいである。

図書館の本の表紙裏に袋がついていてそのなかに図書カード(ブックカード)が入っており、借りるときにそのカードに利用者の名前を記入していた。その図書カードに知っている名前を見つけてはあの人もこの本を読んだのかとホットしたり、感心したりしたものだ。このカードは返却期限日ごとにまとめて保管され、返却督促にも利用されていたのである。現在では、読んだ本に名前を残す図書カードはプライバシーの保護から廃止されてきている。

図書館には書庫がある。書庫には主として専門的研究書が保管されていて、かつては、入庫できるのは原則として教官と大学院生に限られていた。大学院生になり、貸出カウンターで「書庫入室許可証」と書かれた木札を受け取って書庫に入るのは一人前の研究者の仲間入りをしたような気がしたものである。書庫の中は薄暗く、複雑な構造になっていたようで出口がわからなくなるようなこともあった。今日では学部で学生でも「書庫利用講習会」を受講すれば、「書庫入室許可証」が交付される大学も多いようである。

図書館の入館料を払ったことがありますか。公立図書館の利用は無料とされている(図書館法17条)。公立博物館がその維持運営のために必要な対価を徴収することができるというのが対照的である。この無料公開性を活用して、公立図書館を大いに利用しよう。

わが国で最大の図書館は国立国会図書館である。国立国会図書館は本来的には国会議員の調査研究のためのものであるが、一般の国民も利用することができる。納本制度に基づいて、原則として国内で出版されたすべての出版物は国立国会図書館に納本されることになっている。発行者が正当な理由なく納本しなかった場合には、当該出版物の小売価格の5倍までの過料に処する罰則までも規定されている(国立国会図書館法25条の2)。大学の図書館等で探している図書が見つけれなかったら、わが国唯一の法定納本図書館である国立国会図書館に行けば必ずや見つけることができるだろう。



デザイン学部 空間造形学科長

鳥居厚夫

Atsuo Torii

文中に登場した図書

J.D.サリンジャー著、原田敬一訳
フラニー、ズーイー
938.97/Sa53/1高橋和己著
邪宗門
高橋和己著作集4
918.68/Ta33/4

年間40万冊つつ増える本

情報を伝達する手段が非常に多様な現代にあって、現在進行形最先端情報の伝搬速度はインターネットが最も早い。しかしこの内容が世界基準になるかどうかということはこの時点では不明。その証明過程にあるという意味でネット上の情報は誠に面白いと思う。が、じっくりと書き込んだと言える様な物は少ない。一方本の世界はどうかと言うと、紙や印刷が貴重であった時代では、本にするという事自体が、長い時間をかけて熟成した結果、そこにあるコンテンツが人類にとって非常に有意義な物として認知されたということを表しているのではないと思う。つまり書籍というのは、人類の知の資産としてかなりの角度で信頼のおける物であったという事ではないかと思う。翻って、現代では、技術の進歩によって売れそうな文章さえあれば簡単に本にしてみましょう。国立国会図書館のデータによれば、現在収蔵されている和洋図書は724万冊、さらにこれに毎週770冊が加わり、年間で40万冊、3年間で120万冊増える計算になるそうである。もちろんマクロ的に見ればここに収蔵されている書籍は全て、この時代に存在した事を証明する人類の貴重な文化遺産である。しかしだからといってその価値を個々に見たとき、全ての人にとってより意味のあるものとは限らない。つまり本というジャンルに留まっている事が、即ち歴史に残しうる人類共通の知の資産として社会が認知したという事には到底ならない。こういう本にまつわる環境の中にあつて、一冊の本を選んで読むという行為は非常に難しいと思う。しかしメディアのなかで歴史が最も長いのが本の世界。そういう長い歴史の中で、世界中の人々から評価されてきた結果としての名著というものもあるのではないか。社会が変わって新しいメディアで情報がやり取りされる時代にあつても、やはり名著は名著であろうと思う。本の世界に得意でない私の様な人間は、書架を前にしてブックサーフィンを始めてしまうと、それだけで一日が済んでしまう事がままある。こんなとき威力を発揮するのが、名著と言われるものの存在である。では、名著とは何か、本に詳しい人であればある程その定義は難しいと思う。ただし問題は名著の定義ではなく、膨大な本を前にして何を読むべきかということである。学生時代にのみ有効な、それを知る安直ではあるが確実な方法として、自分が信頼する、あるいは尊敬する人生の諸先輩に名著を聞く事である。

私自身、本の面白さを人に伝えられる様な読書量もないのですが、青春時代に出合った本というのはやはり忘れたいものがあります。そのなかで名著とされているかどうかは知りませんがサリンジャーの「フラニーとズーイー」という作品があります。本好きの学生なら中学生や高校生時代に読んでいたかもしれませんが、私の場合はちょっと遅くて、大学生の時でした。そういう意味では、本は最もふさわしい出会いの時期というのがあるのでしょうか。ただその時機を逸してしまったからもう読まないというのももったいない、時期が違ってもまた違う感じ方が出来るかもしれないし、そういう意味では正しい時期などないのですから。子供から大人になる過程で、親や社会が望む姿としての優等生を演じて来た子供が自分で考える事を覚え成長してゆく姿を描いたもので映画「フィールド・オブ・ドリームス」では悪書としてPTAに吊るしあげられている本でもあります。2～3年前に読んでいたなら、進路の選択肢は違ったかもしれないと思った事を覚えています。また高橋和己の「邪宗門」は70年安保の時代とリンクして純粹無垢な少年と国家権力の戦いを当時の自分の心情になぞらえて、まさに小説の世界に入り込んで怒り涙して読んでいました。

物造りを主業務とする人間にとって、読書というのは一種の罪悪感を伴う行為なのである。絵を何枚描いたかあるいは幾つ部品を製作したかが問われる空間にいて、それが面白い本であればある程、「あっ、まずい。早く寝て明日の作業に備えなければ」などと思いつつ、明け方まで読んでしまい、やっぱり納期に響かせて後悔しながら、それでもまた読んでしまう。はれてリタイヤした暁には、罪悪感に苛まれずに晴耕雨読で生活したいものと今から楽しみにしている。学生時代は本を読む事が仕事の一部であり、本を読んでいれば怒られない誠に恵まれた期間であり、大学の図書館は君たち向けに本を選んで整理している、名著を揃えている貴重な機関なのである。

マイライブラリ編

マイライブラリとは

蔵書目録検索(OPAC)にポータル機能(個人ページ機能)をもたせたオンラインサービスです。
これまで図書館カウンターで手続きを行わなければできなかったサービスが、自分自身で可能となりました。
新たに加わった機能を駆使して、図書館を使いこなしましょう！

Q1：新たに加わった機能とは何ですか。

A1：Ⅰ. 利用状況の確認機能
Ⅱ. オンライン予約機能
Ⅲ. ブックマークの保存・送信機能
Ⅳ. 新着通知機能
この4点です。

Q2：マイライブラリはどこで利用できますか。

A2：インターネット環境が整っていれば、学外でも利用可能です。

画面 1



図書館・情報センター トップページ

① マイライブラリをクリック

ログイン画面

② ログインにはID欄に学籍番号、パスワード欄にSUAC-NETログインパスワードを入力してください。

画面 2



マイライブラリ トップページ画面

機能Ⅰ：貸出・予約状況・お知らせの確認

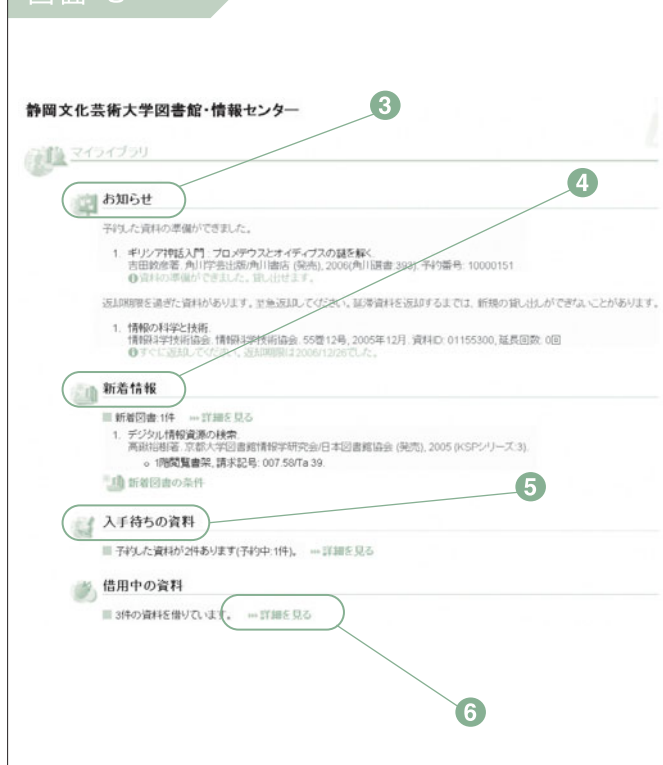
③ 図書館からのお知らせが表示されます。
延滞資料、予約により確保された資料がある場合、詳細情報が表示されます。

④ 新着情報
指定した条件に当てはまる資料が新しく図書館に入った場合、その情報が表示されます。
条件を設定するには「機能Ⅳ：新着図書の入入れ通知」を参照してください。

⑤ 予約資料の情報が表示されます。
書名を確認する場合、「詳細を見る」をクリックしてください。
予約方法は「機能Ⅱ：オンライン蔵書予約」を参照してください。

⑥ 借りている資料の件数が表示されます。書名や返却期限などを確認するには「詳細を見る」をクリックしてください。

画面 3



〈シリーズ〉 図書館・情報センターを使いこなそう！⑨

図書検索詳細画面

機能Ⅱ：オンライン蔵書予約

- Q 3：貸出中の資料に予約をかけたいのですが。
 A 3：マイライブラリなら自宅からでも予約できます。
 ※貸出されていない資料への予約はできません。
 ※研究室貸出資料への予約はカウンターで相談してください。

- 7 予約可能な場合、「押しピン」マークが表示されます。
 8 「確認に進む」をクリックした後、「この内容で予約」をクリックすれば、予約が完了します。

- Q 4：誤って予約した場合や、不要になった場合はどうしたらよいですか。
 A 4：予約の取消もマイライブラリから行えます。

- 9 マイライブラリトップ画面の「入手待ちの資料」の詳細を確認します。
 10 取り消したい資料にチェックを入れ、「予約取消」をクリックすれば完了です。

検索結果一覧画面

機能Ⅲ：ブックマーク保存・送信機能

- Q 5：ブックマークとは何ですか。
 A 5：資料検索結果を一時的に保存することをブックマークといいます。

- 11 ブックマークに登録したい資料にチェックを入れ「図書をブックマーク」をクリックします。

- 12 ブックマークした後、画面右上の「ブックマーク一覧」をクリックします。



Q 6 : ブックマークを印刷できますか。

A 6 : OPAC端末では出来ませんが、メディアステーション・情報検索コーナーでは結果を印刷できます。また、ブックマークの保存、メール送信も可能です。

13 対象資料にチェックを入れるか、「すべてを選択」をクリックし、希望する操作を行ってください。

14 ブックマーク削除

一時的に保存しているブックマークを削除します。

ダウンロード

現在使用しているパソコンにブックマーク情報を「.txt」形式でダウンロードします。

※蔵書検索用端末では行わないでください。

メール送信

ブックマーク情報をメールで送信します。

15 「所蔵」にチェックを入れて表示をクリックすると、所蔵情報も合わせて表示されます。実際に資料を探すときに便利です。



新着情報画面

機能Ⅳ:新着図書の受入れ通知

Q 7 : 新着図書の受入れ通知とはどんなサービスですか。

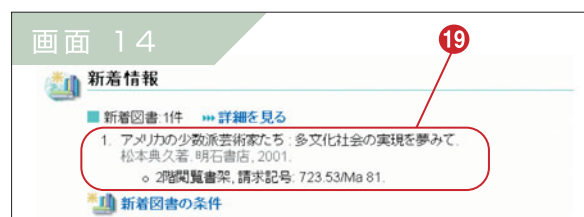
A 7 : 過去14日分の新着資料のうち、指定した条件に当てはまる資料をお知らせするサービスです。直前に受け入れた資料から順に表示します。

16 マイライブラリトップ画面から「新着図書の条件」をクリックします。

17 条件には書名、著者名、件名(内容を表す言葉)が指定できます。具体的には「芸術」「文化」を指定すると、条件をタイトルに含む資料や、内容(件名)に指定されている資料をトップ画面で表示します。

18 「入力条件の確認」→「この条件を登録」で設定が完了します。

19 トップ画面には条件に合致する新規受入れ資料が表示されます。



～まとめとお願い～

マイライブラリを駆使することにより、時間、空間を大幅に節約し、より便利に図書館を利用できます。なお、利用状況の確認がいつでも行えるようになったので、利用状況を常に自分自身で確認し、長期延滞や予約資料の受取り忘れのないよう、心がけてください。

本学教員の著作物

山本幸司(著) 国際文化学科長	「「悪口」という文化」 平凡社、2006.11	382/Y31
福岡欣治(共著) 文化政策学科助教授	「対人関係と適応の心理学—ストレス対処の理論と実践」 北大路書房、2006.9	146.21/F82
片山泰輔(著) 芸術文化学科助教授	「アメリカの財政と福祉国家〈8〉アメリカの芸術文化政策」 日本経済評論社、2006.9	709.53/Ka84
木村尚三郎(著) 学長	「日本の美風」 潮出版、2007.1	914.6/Ki39
扇田昭彦(著) 芸術文化学科特任教授	「唐十郎の劇世界」 右文書院、2007.1	775.5/Se62
宮内博実(著) メディア造形学科長	「毎日が楽しくなる色の取り扱い説明書」 かんき出版、2006.4	757.3/Mi86